

林業技術センター
普及班便り
(第69回)

いわての 林業人48 林業女子特集

かつて、「男の仕事」と言われていた森林・林業の現場では、多くの女性が知識や技術、資格を習得し活躍しています。
今回は、その中から3名の女性を紹介します。

漆掻き職人(二戸市)
長島 まどかさん



長島さんは、埼玉県出身。以前は広島県の伝統工芸品「熊野筆」の製造会社に勤めていましたが、漆掻きの仕事を紹介するテレビ番組を見たことがきっかけで転職を考えるよう



漆の木と対話しながら丁寧に漆を採取する長島さん

になったそうです。日本史が好きな長島さんは、国宝等文化財の修復に品質の良い国産漆が求められている今、漆掻き職人として文化財修復に携わりたいと転職を決意し、二戸市地域おこし協力隊「うるしびと」に応募しました。採用後は二戸市に移住し、岩手県浄法寺漆生産組合の泉山義夫組合長から指導を受けながら、約3年の修行を行いました。そして、この春、二戸市に定住を決め、漆掻き職人として独立しました。

長島さんは「漆の木にもそれぞれの性格があり、木の性質を見極め、天候に応じて木と相談しながら採取のタイミングを計ることが大切」と



漆の木目と色を活かし、ブルーのビーズが素敵なイヤリング

話されます。また、「同じ手間なら、より良いものを作りたい!」との強い思いからくる丁寧な仕事振りが第39回浄法寺漆共進会(平成29年)の初^{はつ}辺^への部^ぶでみごと金賞を受賞することに繋がったのでしよう。

漆掻き作業のない冬場は漆塗りの作業を行ったり、漆の木を使ったアクセサリーを製作し、広島県の知人の店に出品しています。また、アクセサリー以外の漆関連製品の製作にも意欲的で、現在試作を進めています。今後も、二戸市に住み続け、夏は漆掻き、冬は漆関係の仕事と、漆を極めていく決意を伝えてくれました。

漆掻きに興味がある方は、二戸市漆産業課へお問合せください!
☎0195(38)4472

株式会社徳風(大船渡市)
柏 ひろ子さん



柏さんは、神奈川県出身。現在遠野市在住で、大船渡市に本社のある株式会社徳風に勤務し、特殊伐採や支障木伐採、森林整備等に従事しています。

動物をこよなく愛する柏さんは、神奈川県在住時に、遠野の「馬搬」の存在を知り、馬と一緒に働けることに魅力を感じ、2ヶ月に1回のペースで何度も遠野に通い、ついには遠野に自分の居場所を見つけたと目を輝かせながら話してくれました。

遠野に移住後、釜石地方森林組合の「釜石・大槌パークレイズ林業スクール」を受講し、そこで木登り実習の講師として来ていた現勤務先の社長から声をかけられ入社に至りました。そもそも、柏さんと林業を結びつけた最大の要因の一つは《動物》。

かつて旅先で出会ったニュージージーランドのペンギンやアシカの子供たち、オーストラリアのウォンバットなど野生動物に魅了され、林業は彼らの暮らしを守ることに繋がっていると確信したと話しています。

入社後、力仕事ではどうしても男性に劣ってしまい辛い時期もあったのですが、器用な手先を活かし、特殊伐採で使用するロープをスプライス加工したり、道具の手入れをしたりと自分なりの得意分野を活かすように心がけています。

さらには自身のスキルアップのため、木登りの練習や、重機の操作練習に日々励んでいます。

「いつか、荒れた山を少しずつ再生し、生き物が豊かな山を未来に繋いでいきたい。そこが保護区にできたら最高です！」と、夢を語ってく



柏さんと林業を結びつけた馬搬引き馬の練習も怠りません



れました。社長からは、社内で初めて採用した女性職員であることから応援をいとわれないとのことで、今後の活躍が期待されます。

気仙地方森林組合本所（住田町）
菅野 由加里さん



すでに、現代林業（一般社団法人全国林業改良普及協会発行2009年11月号）の表紙や県内のテレビ放送等でご存じの方も多いことと思いますが、菅野さんは気仙地方森林組合の職員です。

菅野さんは、陸前高田市在住。大

学時代に合同企業説明会に参加し、かつて祖父が馬搬集材をやっていたこともあり、林業に興味を持ち、今の組合に就職を決めました。

組合では、森林整備事業、現場管理、森林認証、購買関係等の手続きを幅広く担当しています。また、事務所内の業務だけでなく、現場に向き測量なども行っています。

菅野さんは、依頼を受けた山の所有者との作業の打合せの際、所有者の人柄に合わせて話を進めたり、作業内容や経費について分かりやすく説明するように心がけています。

菅野さんもまた(株)徳風の柏さん同様に、男性職員に技術的にも体力的にも追いつけない部分があると感じることがあり、自分は何ができるか熟慮して、女性ならではの細やかな気配りを今後の業務に活かしていきたい



組合長からどんどん現場へ出るように背中を押され、測量中の菅野さん

たいと話していました。また、研修会や現地検討会などに参加し、先進的な技術を身に付け、より一層組合員から信頼され、仕事を頼まれる職員になれるよう励んでいます。

林業への女性の参画に前向きな組合長は、研修会への参加や、現場の業務に積極的に出ていくよう、アドバイスしているとのことでした。

取材を終えて

きっかけはそれぞれですが、林業を振興していこうという意気込みや、林業に対する熱心な取組姿勢が共通しており、また、手先の器用さが要求される作業や、穏やかに交渉をまとめるなど、女性ならではの気配りが業務に反映されていると感じました。

林業は、造林してから伐採・利用できるまで50年以上という長い時間がかかり、その間に社会情勢も大きく変わってしまっています。

情勢の変化に備え、きめ細やかに考え、対応することができると女性が林業に関わる意義は大きいでしょう。今後も引き続き、林業の現場で働く女性を紹介したいと思います。

林業技術センター 普及班

019(697)1536